



2020年(令和2年)5月号

中野区立江原小学校 学校便り

校長 根来 郁明 児童数 515名

学校教育目標

自立し、共に生き、平和を求める子
『かしこく』『やさしく』『たくましく』

教育活動の充実を目指して

校長 根来 郁明

「学校は人を育てるところ」です。子どもたちの成長を目指すと同時に、江原小学校に勤務する教職員にとっても、自己の成長が実感でき、充実感と達成感を味わえる学校でありたいと考えています。

1 教育公務員としての資質

教育目標を達成するためには、常に自分たちの資質能力の向上を目指していく必要があります。教職員には、学習指導力、生活指導力・進路指導力、外部との連携・折衝力、学校運営力・組織貢献力等、それぞれの職責や立場に応じて様々な資質が求められています。

中でも、学校に勤める全ての教職員に必要なだと感じている資質があります。それは、『子どもたちへの愛情』です。学習指導、給食指導、清掃指導、学級事務等、様々な教育活動を行う中で、常に「子どもたちのためになっているのか」を基準に考えることができるかということです。分かる授業を増やす、一人ひとりとしっかり関わる時間を増やす等、子どもたちの成長を第一に考え、成長を共に喜び合う、そんな学校を目指しています。愛情あふれる教職員と共に、教育活動をさらに充実させていきます。

2 江原小の職員としての自覚と責任

学校は、教育活動を円滑に行うために、校長、副校長、主幹教諭、主任教諭、教諭、養護教諭、支援員、栄養士及び事務職員等の様々な職員が働いています。校務主事、給食調理員、警備員等も含めると、多くの職員によって組織され、運営されています。

若手も、ベテランも、子どもたちや保護者から「先生」と呼ばれるからには、プロであるべきです。教育のプロ、学校職員のプロとしての自覚と責任をもって、仕事をしていくことが大切です。「自分は何をするために江原小にいるのか」「自分には何ができるのか」をそれぞれが考え、自分の存在価値を見出して欲しいと思います。

職場を異動するたびに、思い出す言葉があります。

汝 何の為に 其処に在り也 (なんじ なんのために そこにありや)

(秋田高等学校 第28代校長 鈴木健次郎先生の言葉)

着任して1か月が過ぎました。校長として「何をするために江原小に来たのか」「江原小で何をしていくべきか」、じっくりと考えていきたいと思っています。